

3年間(2007-2009)の地質の調査研修を振り返って(6)

研修の様子3:川沿い本流でのルートマップづくりと林道との対比(第4日目)

<猪の川本流のルートマップづくりの継続と褶曲軸に平行および直交方向での鍵層対比>



a. 安野層下位の清澄層の分布域は、厚い砂岩が優勢な砂岩泥岩互層からなるため、のっぺりした平坦な河床面が多く、歩きやすい。猪の川上流。清澄背斜北翼。2007年10月。



b. 厚さ1m 50cm余のゴマシオ状凝灰岩から成るHkタフは、清澄層中第一級の鍵層であり、三浦の西海岸から房総の東海岸まで70km余りつづく。猪の川上流。清澄背斜北翼。2007年10月。



c. 清澄層とその下位の天津層との境界付近。滝つぼタフ～パーミュダタフ～秋田おぼこタフ～黒潮タフ(画面外)が、厚さ10m余の間に密集して産出する。猪の川上流。清澄背斜北翼。2007年10月。



d. 猪の川西方の三石山林道沿いに露出する清澄層のHkタフ。手前の白色部がHkタフ。向こう側の黒っぽい帯は、Hkタフの1~2m上位にみられるアワオコシタフ(スコリア凝灰岩)。三石山林道。清澄背斜北翼。2007年10月。



e. 清澄背斜南翼の田代林道沿いの清澄層と天津層の境界付近。滝つぼタフ(表面を整形している部分)と黒潮タフ(手前の黒バンド部)の間の厚さは数mしかない。滝つぼタフの直上から砂岩優勢な互層が厚く発達。前方では、滝つぼタフの上位にある滝の上タフを観察中。2007年10月。



f. 清澄向斜南翼に位置する林道淵ヶ沢-奥米線沿いの滝つぼタフ(削っている部分)。向斜南翼では、滝つぼタフと黒潮タフの間には、300m前後の厚い砂岩優勢砂泥互層が発達、その間の鍵層群は、その互層中に分散して挟まれる。2008年10月。